PR

着物地や帯地を再び活かす『お針子事業』

お針子倶楽部 Oharico Club

日本の各家庭には、現在多くの着物や帯が眠っているといわれますが、「着る機会がない」「保管が大変」などの理由により、それらをやむなく廃棄する人が多くなっています。

日本リユースシステム株式会社では、そうした着物や帯を捨てることなく「アップサイクル生地」（不要な生地を価値ある生地にしたもの）として活かすため、国内外の福祉作業所などと連携して、「お針子事業」に取り組んでいます。

日本全国から集まった着物や帯を「Kimonoそのまんまセンター」に集め、独自技術による除菌・消臭加工を施し、着物特有のにおいや菌などを取り除きます。その後、モンゴルへ輸出し、着物をほどいて反物に戻し、さらにカンボジア・北欧・欧米などへ輸出し、アップサイクル生地として販売します。「Kimonoそのまんまセンター」では、着物と帯に加工を施してから輸出するまでの数日間、保管する期間を利用して展示・販売をしています。

環境人づくり企業大賞 2019にて
「環境大臣賞（最優秀賞）」受賞
第3回エコプロアワード「優秀賞（主催者賞）
文化伝承型サーキュラーエコノミー賞」受賞

日本リユースシステム株式会社のお針子事業

一般家庭から着物・帯を集める
- 日本の各家庭で大切に保管されてきた着物や帯を独自の方法で集め、累計416,322着を再活用（※2017年1月～2023年6月）。

Kimonoそのまんまセンター
- 常時約4,000点展示・定期的に商品の入れ替え。
- 独自加工技術による除菌・消臭。
- 輸出されるまでの数日間、着物・帯を展示・販売。

輸出

モンゴル「オハリコ・ジンギ・ワールドセンター」
- 反物に加工（制作は現地の障がいのある方やシングルマザーが中心となって行う）。
- モンゴルの民族衣装（デール）制作に利用。

輸出

世界各地で販売
- カンボジア・北欧・欧米などで「アップサイクル生地」として販売。

行ってみよう！ 着物地・帯地専門店「Kimonoそのまんまセンター」

インスタグラムはこちら
@KIMONO_SONOMAMA

●ご予約はメールもしくはお電話でく完全予約制・送迎付き>
メール yamamoto.zipang@nrscorp.jp
電 話 080-7314-6077
*メールでご連絡の場合は、右のQRコードをスマホで読み込んでいただくと、アドレスの入力を省略できます

●アクセス
住所：千葉県木更津市東太田 4-19-16
<車でお越しの方> 館山自動車道木更津北ICより約9分（駐車場あり）
<バスでお越しの方> JR木更津駅東口より日東バス太田循環線・アピタ木更津店経由「原田大橋」下車徒歩1分

●お得情報 ※2023年9月まで。「その1」と「その2」の併用不可。
その1 会計時に「テキストを見た」と言っていただければ店内着物1点無料
その2 10点以上お買い上げで3点無料
※9,900円（税込み）相当（11点目・12点目・13点目が無料）

Kimonoそのまんまセンター 4つのお約束

常時約4,000点の着物地・帯地が並んでいます。お好きな生地を選び放題。

駐車場完備。ご希望の方にはセンター最寄り駅から車で送迎もいたします。

定期的に生地を総入れ替え。いつ訪れても新しい素材に出会えます。

すべて除菌・消臭加工済み。着物特有のにおいがしないので、安心して使えます。

提供／（運営会社）日本リユースシステム株式会社 https://www.nrscorp.jp/

撮影／末吉さくら 取材＆文／福井順子 デザイン／成田由佳

千葉県木更津市

おしゃれ大好き！森本さんが行く！

「Kimonoそのまんまセンター」ですてきな着物地探し 第1回 秋のバッグ作り編

日本の各家庭で大切にされてきた着物や帯を集め、生地素材として展示・販売している「Kimono そのまんまセンター」。服飾学校の講師で、おしゃれ大好きな森本慧さんが、秋のバッグ作りのための着物地を探しに行ってきました。

森本 慧さん
もりもと・さとし◎文化服装学院アパレルデザイン科講師。モンゴルで開催された民族衣装（デール）のファッションショーに着物地の作品を提供するなど、幅広く活躍中。

◀入店すると、最初にスタッフの山本さんが店内の説明をしてくれる。
▶時間を忘れて着物地を選ぶ、楽しいひととき。（右下）帯のなかにはこんなポップな柄も。
▼運がよければお値打ちものに出会えることも。

約4,000点もの着物・帯がずらり！ 一期一会の生地探しを堪能しました

「Kimonoそのまんまセンター」では、全国から集められた着物や帯を、常時4,000点ほど展示・販売しています。今回初めて、「Kimonoそのまんまセンター」を訪れた森本さん。お店に入るとすぐに着物と帯の美しさに心を奪われ、バッグ作りに合う生地をじっくりと選んでいきました。

「着物を生地として選ぶとき、美しい派手な柄のものに目が行きがちなのですが、和柄は意外と主張が強いので、洋服に合わせるのが難しいんです。だから、ふだん使うものを作るなら、着物と感じさせない洋柄に近い生地か、細かい模様の生地を選ぶのがポイントです。探してみると、和にも洋にも合わせられる柄がたくさん見つかりますよ」

お店に並んでいる着物地・帯地は、すべて独自技術による除菌・消臭加工済み。特有のにおいやかびなどは取り除かれているため、安心して購入できます。そのうえ、すべての商品が一律3,300円（税込み）と明朗会計かつリーズナブル。そのため、ハンドメイド作家やデザイナー、服飾系の学生などを中心に、作品作りの素材として購入する方が多いのだそうです。

時間制限はないので、ゆっくりと自由に生地を選ぶことができるのも魅力。また、展示されている着物や帯は、定期的に入れ替えをしているため、いつ訪れても新しい生地に出会えます。その代わり、今日出会った生地は数日中には輸出されてしまうので、気になる生地に出会ったら、迷わず購入するのがおすすめ。一期一会の生地探しを楽しみます。

着物地で作ってみました！

秋のワンマイルバッグ

「今回作ったのは、財布、スマホ、ペットボトルなどが入るワンマイルバッグです。生地は和服、洋服問わず持てる柄を選びました。持ち手と本体がつながっているので、型紙も少なく作りやすい形です。いろいろな着物地で作って、柄違いをそろえるのもいいですね」

持ち手の脇から物を出し入れできる使い勝手のよいデザイン。丸底なので、容量もたっぷりです。

第2回は11月号の掲載予定です。